

琉球大学学術リポジトリ

琉球森林の現況について

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲宗根, 平男, Nakasone, Hirao メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/19509 |

大豆はチヨツバーにかけるとか搾跡です。他の材料全部を合せて耳たは位の固さになるまで水を入れてねる。梅干大の大きさに千切り、まるくして油で揚げる。これを皿にもり甘酢あんを作つてかける。

◎するめの切漬

材料

- するめ 四分の一斤
- 出し昆布 五寸
- 大豆 一合
- 人参 一本
- 醤油 二合

作り方

醤油を煮たて熱い中へ大豆を炒つて入れる。
するめ、昆布、人参は細かくせん切にして醤油の中に入れ、よく混ぜて瓶に漬け込む。毎日一回ませて二百日から食べる。

◎コロツケ

材料

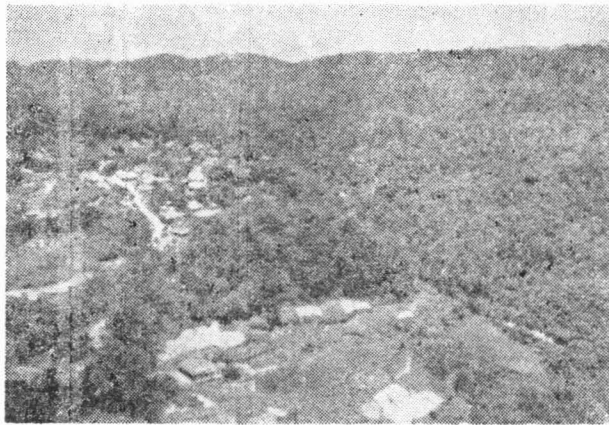
- 大豆 一合（前日から水に浸しておく）
- 玉ねぎ 一個 みじん切り
- 人参 一本 すりおろし
- 卵 一個
- メリケン粉 大匙六
- 塩 小匙一
- 揚油 二合

大豆を搾跡ですり、人参、玉ねぎを加え、メリケン粉をまぜこれに卵を加え耳たは位の固さに水を入れて梅干大に千切り丸めて平らに押しつけて揚げる。ケチャップ又はソースをかけて頂く。

（翁 長 君 代）

琉球森林の現況について

戦後殊に近年に於いて沖縄本島及び宮古、八重山の森林はどのような現況にあるかという事は、林業関係者のみならず、一般農家にあつても興味ある問題であり、又郷土の現況の一部を知る事により、何か得る処があれば幸だと考え、林業上より見た現況についてのべてみた。



（沖縄本島北端の山）

一、森林面積及び所有形態

琉球政府経済局林務課調査（一九五一年）により大別すると次表の通りである。

| 総面積 一三五、七三〇 ha | |
|----------------|--------|
| 田 | 五、四二二 |
| 畑 | 三三、三四五 |
| 荒地 | 三三、二三四 |
| 山林原野 | 一八、〇〇二 |
| 軍使用地 | 三、二七七 |
| 他 | 五二、四五二 |

所有形態別面積

| 総面積 一二八、〇二二 ha | |
|----------------|--------|
| 官有林 | 四〇、九二二 |
| 市町村有林 | 五五、四八四 |
| 私有林 | 二二、六〇六 |
| 旧国有林、旧県有林 | 三四、六一〇 |

二、地形上より見た森林状況

沖縄本島北部地区は一般に海拔の高い山々が連なり、地形複雑で農耕地に不適当な土地が多く、大団地の森林状況を呈している。

中部、南部地区に於ては海拔高が低く、地形緩慢で農耕地、村落、軍用地等として利用され、大団地の森林は殆んどない。宮古島も本島中南部地区と酷似し殆んど農耕地として利用され大団地の森林はない。

八重山、一般に海拔高く、地形複雑で石垣島の一部、離島の一部を除いては殆んど森林状態である。

三、林相上より見た森林状況

全島的に見ると、気象条件に大差がなく、森林分布上からも同

一形態の広葉樹を主体とした天然林であるという事が出来る。個々の林相については、地質上の相違、森林伐採状況或は造林状況等の相違によつて大差を主じているが、此処では各地区別に大別して概要をのべる。

北部地区

国頭村、東村、大宜味村一带は、本島唯一の森林資源地帯である。海岸線沿い(約一里内外)は葦搬便の為戦前より極度に濫伐され、其の結果は広葉樹のオキナワシイが大半を占め、イ

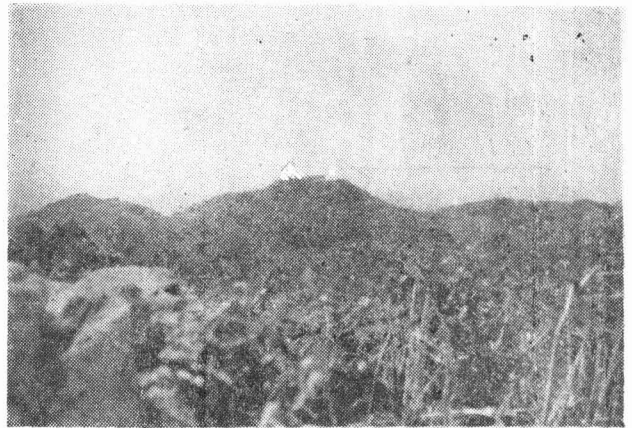


(東村の山々)

ジユ其他雑木、と、リュウキウチク(ヤンバルダケ)が混生した幼令林であり、又焼畑、或は火入れ等を行った地域に於てはリュウキウマツとリュウキウチクの混生している天然林が現出している。

此の地域に於ては主として薪生産が行われ、一部に於ては木炭製煉が行われ居り、年々林相は悪化の傾向にある。

奥地の搬出不便の地域に於ては、オキナワシイ、オキナワラジロガシ、ユスノキ、イジユ等の壮老令木林が現存し、一部有用樹のみは広葉樹用材(扇材と称して居る)として都市へ送り出されて居る。



(本部半島の山々)

「羽地村、久志村、名護町、恩納村一带の山林は戦中、戦後の濫伐の結果、壮老令木殆んど見受けられず、幼令林のみの即ち雑木林の形態に処々にリュウキウマツの点在した林相で、薪材としての利用のみで、用材は期待されない。葦搬至便の為に盛に薪生産が行われ都市向出荷されて居る。

本部半島(今帰仁村、本部町、上本部村、屋部村)は石灰岩を主体とした地域で、地味悪く、加うるに濫伐の結果リュウキウマツを主体として灌木状の種々雑多な樹種が混生して居る不良な林相を呈して居る。今帰仁村の一部には拜所として原主林が保存されて居るが、昔日の本地帯の林相が想像されよう。

中南部地区

戦禍の被害甚だしく一本一草までも焼きつくされた状態の地区で、殆んどオニガヤが繁茂し、木らしき一樹も見受けられなかつたが、近年天然的にリュウキウマツの稚樹や、其他たい木

状の樹種が稍緑をあらわす状態となつて来ている。

主たる樹種はオホバキ、クサギ、イヌビワ、サンゴジユ、ホルトノキ等で、其他アカウ、ガジマル等といつた樹種が小団地状に漸次に森林状態を呈しつつある。(離島関係は次号)

(仲宗根平男)

あとがき

本学誌では「琉球農家便り」を毎月発行致します。皆様に本誌を年号お届けできますよう極力つとめますから、お纏め下さるようお願い致します。

師走は一年の総括りの月で、しかもお正月の準備あれこれと忙しいものです。その忙しい中にも臍腹をきいて、過ぎ去つた一年を振り返り、急速に進歩して行く世界文明の流れに取り残されては居ないかどうか、祖先代々の営みを其傳承継ぎ、新しい農業経営法や生活改善に耳目を塞ぎがちでは無かつたかどうかを反省すること或は自分の努力の成果を評価して見ることは大へん価値あることではないでせうか。

明るい希望を持つて、楽しいお正月をお迎え下さい。

指令第千八百九十号

一九五五年十二月五日 印刷

一九五五年十一月一日 発行

(非売品)

発行所 琉球大学農家政学部
 発行人 島袋俊一
 印刷所 沖繩タイムス社